

令和5年度 第5回郡上市行政改革推進審議会 要録

日 時

令和6年1月16日（火）13時30分～14時30分

会 場

郡上市役所本庁舎 4階大会議室

出席委員

尾藤望会長、井上勇治委員、蒲智美委員、増田雅幸委員、神谷公眞委員、白田啓子委員、橋川健祐委員

欠席委員

昇秀樹会長代理、河合美世子委員、大坪千草委員

職務による出席者

河合市長公室長、鷲見企画課長補佐、河合改革推進係長、村山主任

会議内容

1. 開会

2. あいさつ

<会長あいさつ要旨>

皆さんもご存じのとおり、元日の能登地方での震災や飛行機事故があり、緊張した年始めとなった。郡上市からも被災地へ職員の派遣や物資の支援など、皆さんが救助活動等をされている中ではあるが、本審議会は通常の日常を想定した行政改革を審議することになる。

コロナ禍しかりウクライナ情勢等での物価高騰、それに加え震災等の突発的な災害も含め、今まで想定してなかった事態が次から次へと発生しているうえに、12月に発表された将来推計人口がかなり衝撃的な数字となっている。5年前の想定と比べて、大きく数字の変化があり、コロナ禍による影響は少なからずあるとは思いますが、私が70歳になるころには地域が存続しているのか懸念されるほどのレベルである。少子化に関しては、全世界的な流れであるとの報道もあり、これからの時代は、今までと違う想定の下かつ人口減少は決められた路線として踏まえながら将来設計しなければならないと個人的に思っている。

暗い話ばかりしても先がない感じになってしまうため、できる限り委員の皆様におかれましては、郡上市の将来・未来を託すということも含め、積極的に意見していただき、より良い行政改革に繋がればと思うので、本日もよろしく願います。

<市長公室長あいさつ要旨>

今ほど会長から震災の話があったので、郡上市の支援について少しだけ紹介させていただく。発災当初から郡上市消防本部から緊急消防援助隊岐阜県大隊として消火隊4名、救助隊3名の7名の職員が現地へ赴いている。以降、三次にわたり現地派遣をしてきたが、先日、神奈川県消防本部へ引き継ぎ、岐阜県大隊は引き上げてきたところである。また、石川県七尾市とは友好交流関係にあり、水不足ということで「郡上の天然水」を七尾市へ届けたことに加え、国から岐阜県が石川県中能登町への被災地支援に指定されたことから、環境水道部の職員が現地へ赴いている。

また、岐阜県にあっては石川県輪島市への支援も加わった。過日、避難所支援への派遣要請が県からあり、現在段取りをしているところである。今後も、何度かにわたり職員の派遣、物資の支援等があるかと思うが、郡上市も精一杯支援にあたっていきたいと考えている。

3. 審議事項

(1) 第3次郡上市行政改革大綱(改訂)について

資料1

■事務局より資料1に基づき説明

□審議会委員からの意見、質疑応答

- (委員) 内容に関してではないが、将来推計人口について令和27年(2045年)のデータが前は約28,000人で、今回は約24,000人と約4,000人もの差があるわけだが、これは、予想していたよりも減少スピードが速まっていることだと思う。現段階で要因や分析等しているのであれば可能な範囲で教えていただきたい。
- (市) 昨年末の12月22日に推計が出たばかりであり、その分析に使用する数値等が示されていないため、まだ分析までには至っていない。数値等が示され次第分析を進めるとともに、併せてそれを基にした新しい「郡上市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を策定していくこととしている。
- (委員) 令和2年(2020年)には、既に予測値より実数が1,000人程下回っていたように記憶しているが、確実に数値として現れてきていると感じている。
- (委員) 3ページの「策定の背景」についてだが、最新の令和5年12月22日のデータが記載されており、これまで2回の審議会では前回データのうえで審議を行ってきたこともあるため、最新データを掲載することが妥当かどうかとも思う。最新データを掲載することは必要ではあるが、前回データよりも大幅に人口が減少していることが分かり、他の市町村と同じように横並びの政策をしたとしても改善しないため、郡上市は飛び抜けた改革をしなければならないと思った。
- (市) 人口減少は避けて通れないという現実がある。こういった事も踏まえ過去の行政改革大綱を作ってきたところである。市がこれから活性化に向けてどう取り組んでいくかということについては、市全体を網羅する「郡上市総合計画」や「郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略」といった地方創生を推進する戦略に基づいて行っていくこととしている。この行政改革大綱は、それらを進めていくうえで、行財政運営の分野から下支えする計画と位置付けているためご理解いただきたい。
- (委員) 23ページの将来推計人口には、区分がそれぞれ年齢毎に区切られているが全国統一の区分となるのか。
- (市) これは全国統一となっており、年少人口(14歳以下)、生産年齢人口(15歳~64歳)、老年人口(65歳以上)とされている。
- (委員) 私も老年人口の部類ではあるが、まだ現役で働いていることもあり、実際には働いている方の年齢はもっと上がってくるだろうと思う。「生産年齢人口が半分になる」と単純に活字や数字を見れば暗いイメージだが、例えば、郡上市では働ける年齢が70歳とした場合の人口比率は大きく変わってくるため、明るい方向へもっていけないかと思った。
- (市) 最近の統計の数字の出し方を見ると、65歳以上の集計に加え、うち75歳以上といった形で出ていることもあり、委員の言われるように65歳から75歳

が働く世代としてカウントできるということもあろうかと思う。他にも医療の面から75歳以上の後期高齢者がどれだけいるのかといった集計方法もあるが、今後「第3次郡上市総合計画」を策定するうえで、そういった数値を見ながら施策を検討していきたいと思っている。

(委員) 確かに審議会が検証したタイミングで12月の情報がなかったわけだが、行政改革大綱(案)を出すうえでは、当然最新の情報を入れなければ策定としては不十分だと考える。ただし、さらに頑張っていかなければならないということはどこかに入れる必要があると思っており、答申書の中で「なお書き」として記述しておくことも一つの手ではあると思う。

(2) 第3次郡上市行政改革大綱(改訂)の答申書(案)について

資料2

■事務局より資料2に基づき説明

□審議会委員からの意見、質疑応答

(委員) 記から下4行目までになるが、主語が「当審議会に諮問された・・・の審議は、」と始まるのに対し、語尾では「慎重な審議を重ねてまいりました。」となっていることから『審議』が重なり違和感がある。代替案としては、始まりを「・・・については、」としてはどうか。

(市) ご指摘のとおり『審議』が重なることもあるため、整理させていただく。

(委員) 5行目の「とりわけ、人口減少・少子高齢化の急速な展開は」の後に句読点を加えた方が良いかと思う。また、7行目には「令和32年には団塊ジュニア世代が・・・」とあるが、先のことを見すぎている感じも受ける。当然、将来を見据えなければならないことは理解しているが、この行政改革大綱はこの先2年までの改訂であり、令和32年には必ずこうなっているとも言い切れないため違和感がある。

(委員) 今ほどの意見に加え、令和32年の表記のみでは、2032年と勘違いされることも想定されるため、西暦を加えた方が分かりやすいと思う。

(委員) 意見欄の2つ目に「外国人市民」とあるが、どういった人を捉えたらよいか。

(市) この「外国人市民」とは、郡上市に住民登録がある外国人の方、在住者を示しており、現在は約680人となる。

(委員) 3段落目では、「このような状況下において」とあるが、この意味は前文の「限られた時間の中で」という解釈で良いか。

(市) 「このような状況下において」は、1段落目の社会変化の部分と2段落目の人口減少・少子高齢化に対する意味合いとなる。

(委員) 意見欄の2つ目に「外国人市民が増加傾向にあることなど、社会構造の変化を的確に把握しながら」とあるが、『など』というのは他のことも含めてといった解釈で良いか。文章が足らず、「外国人市民の増加傾向」が強調されているように感じる。

- (市) 例えば、「高齢化に伴う担い手の不足や、外国人市民が増加傾向にあることなど」と少し幅を持たせるような記述にしたいと思う。
- (委員) 3段落目に「限りある資源を効果的かつ効率的に最大限活用する視点をもって・・・社会的課題の改善や解決にあたる」とあり、まさしくその通りだと思っているが、暗い印象があるためポジティブな表現にできないかとも思う。今回の能登地方での震災でも、資源が限られている中、住居支援や耐震改修的な政策の遅れが大きな被害をもたらした側面があると見ており、限られた資源の中でできることをといた視点はもちろん大切ではあるが、暮らしの安全やより安心な地域社会を作るには、市民と行政が協働していくといった視点が重要だと思っている。
- (市) 震災のことも踏まえていくと、いろんなことを考えていかなければならないと思っている。少し整理をして、会長と相談をしながら了承が得られれば記述を変えさせていただく。
- (委員) 意見欄3つ目に定員適正化計画について記述があり、市民サービス全体に影響が出るのが懸念されるため職員の定員を適正管理するという趣旨ではあるが、そもそも「職員を大事にする」といった一言なり追記すべきだと考えている。市の職員自身も市民の1人であるといった認識を持つことや市民と同じように守られるべきだと思うため、健全な職場環境や十分な健康があつてこそ、市民サービスに対する活動が出来るといった視点が欲しいと思った。例えば、「メンタルヘルスに与える影響は看過できず、職員の安全管理がまず重要であり、そのようなことが放置されると、市民サービスの低下にも繋がる」といった記述はどうか。行政改革は、今まで人員の削減や効率化を重視してきた部分もあるが、現在は、定数も確保できない状況で各方面に問題が生じていると感じている。これからは、限られた時間と人材の中でベストなところを目指すようにすることが必要だと思うので、記述については一度検討いただきたい。

4. 閉会

以上、14時30分終了